

## 「今ここでしか得られないこと」

学務担当副学長 工藤孝幾

現在、S棟入口には、「今ここでしか得られないことがある」という垂れ幕が掲げられている。これは、今年、福島大学が特に高校生に対するメッセージとして好んで使ってきたフレーズである。しかし、これは対外的メッセージとしてだけでなく、福島大学に学ぶ君たち学生、そして私たち教職員が日々の行動の指針として参照すべきフレーズでもある。

福島県は、東日本大震災と原発事故という多重災害に見舞われ、その復旧・復興の途上にある。特に原発事故の影響は、他の災害とは異なり、時とともにその姿を変えながら私たちの生活を脅かし続けている。福島県の地元大学である福島大学で学び働く私たちにとって、この問題は決して一過性のものではなく、今後も向き合い続けなければならない時代の課題である。

震災からもうすぐ2年が経過しようとしている。この間、福島大学は総力を結集してこの課題に取り組んできているが、その中で、学生が果たしてきた役割には目を見張るものがある。地域の復旧・復興の最も現地に近いところで、そこに暮らす人々を元気づけようとする活動に取り組む福大生の若いエネルギーに、私は少々の驚きと大きな希望を感じる。こうした実践の中で、学生もそして大学自体も多くの経験を積み、「今ここでしか得られないこと」を学んでいるのだろう。

このような状況の中で、今年もキャンパスライフ活性化事業の募集を行った。震災前までは毎年5件から6件の企画が採択されてきたが、震災後の昨年の応募件数は3件、そして今年はたった1件のみとなってしまった。理由は様々考えられるが、キャンパスを活性化させようとする若い力が減退してきたことが原因ではないと私は信じている。おそらく、ボランティアセンターを中心に多くのプロジェクトが常時動いており、新たな事業を企画し審査を受けるという手続きが、今の福島大学の実態にそぐわないのかもしれない。また、この事業がスタートしてから今回で10年、事業の周知や募集の仕方の工夫も必要だろう。次年度に向けて工夫してみたい。

今回採択された『「福島に生きる」を考えるワークショップ』事業は、昨年に引き続き震災復興支援に関わるプロジェクトである。震災・原発事故の影響下にある福島の地で生きていくということの意味を、学生・避難者・市民がそれぞれの立場で考え、交流し、絆を確かめ合おうという試みである。キャンパスの範囲を超え、地域を巻き込んだ活性化事業として、この事業の趣旨にかなう素晴らしい企画である。

震災・原発に関連して地域を元気づけようとするプロジェクトは、今後も継続するだろう。次年度に向けて一言付け加えるなら、この事業のタイトルである「キャンパスライフ活性化」を地で行く企画、学生自身あるいは大学自体が楽しく元気になることを正面に据えた企画にもぜひ積極的に取り組んでもらいたい。福大生が楽しそうに盛り上がることで、きっと地域も元気になるはずだから。

## 1. 事業目的

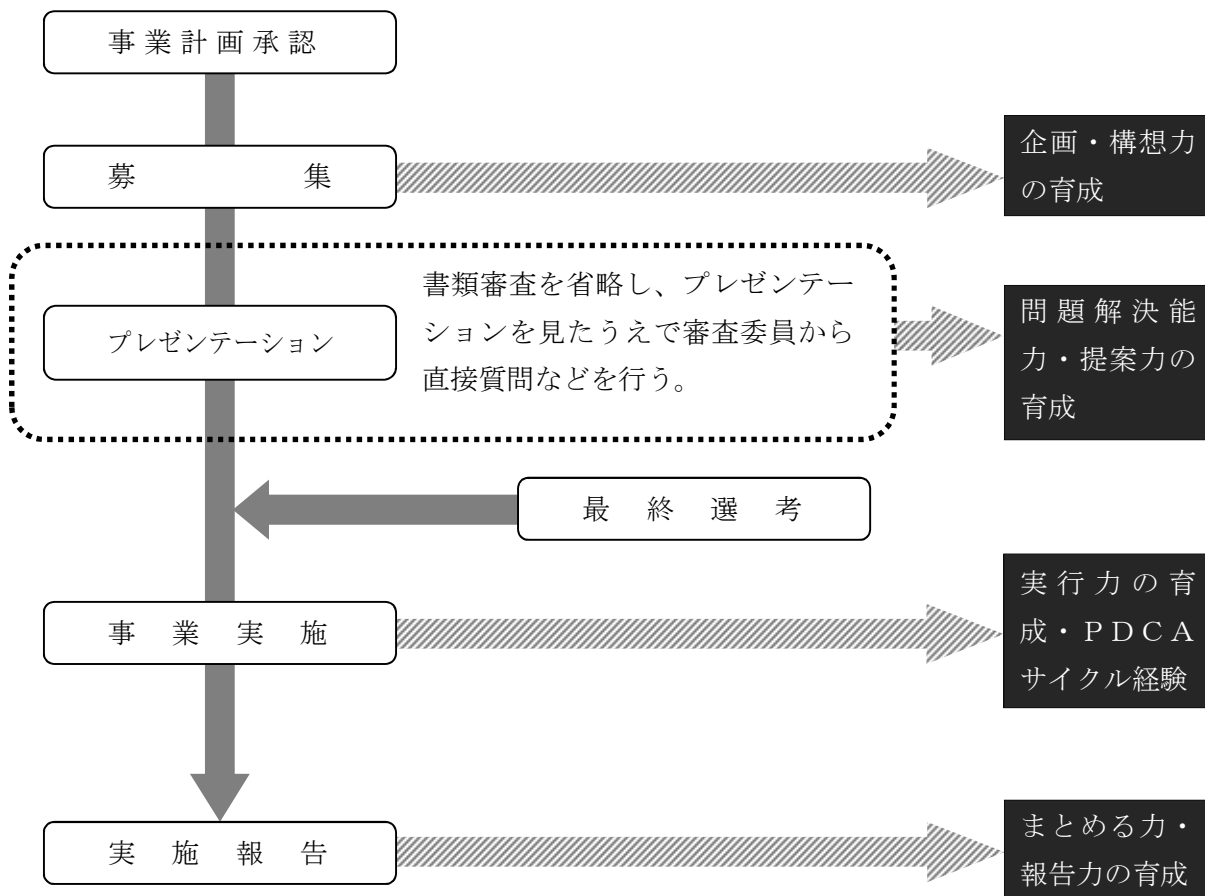
福島大学キャンパスライフの活性化・充実のため、本学の構成員に夢を与え、明日に向けての活力になるような企画・提案を学生から募集し、審査のうえ事業採択し実施する。

(想定される事業)

- ①キャンパス生活を快適にするための事業
- ②研究・製作・調査（卒業研究に関するものを除く）
- ③地域社会との文化的・社会的連携に寄与する事業
- ④福島大学のPRに関する出版、ビデオの作成等の事業
- ⑤国際交流に関する事業
- ⑥スポーツ・文化活動に関する事業
- ⑦ボランティア活動
- ⑧21世紀にふさわしいフェスティバル
- ⑨学生・教職員に夢を与えることができる事業

※その他キャンパス生活をより充実させる事業（課外活動紹介・大会応援など学生参加企画）等

## 2. 事業スキーム



### 3. 事業スケジュール

期 日	事 項	内 容 等	備 考
□H24.04.18.	学生生活委員会	事業計画等審議・了承	
□H24.04.23 ～ H24.05.18	募集期間	掲示板、電子掲示板、サークルBOX等へ配布・周知	
□H24.05.23	プレゼンテーション	応募者1団体20分程度 終了後、仮審査	
□H24.05.23 ～ H24.05.30	最終審査	採択事業の決定	
□H24.06.04	採択結果発表	掲示等	
□H24.06.04 ～ H24.12.28	採択事業の実施 予算執行	採択プロジェクトについて、各々 事業を実施 予算執行は事前相談のうえ行う	
□H24.11.03 ～ H24.11.04	大学祭一般公開出展	構成メンバーで展示ブースの運営 を行い、プロジェクト内容を公表	
□H25.01.11	実施報告書提出期限	事業実施後、報告書提出	

## 4. 募集

【募集期間】 平成 24 年 4 月 23 日（月）～5 月 18 日（金）

【募集広報】 ①学内掲示

②電子掲示板

③サークルボックスへのDM

④教務課・学生課による窓口配布

⑤大学および学生課ホームページへの掲載 等

【申請条件】 本学の学類学生（現代教養コース学生含む）及び大学院生で個人又は団体（サークルでも可）。ただし、1 個人・1 団体で1 件の応募に限定。

※非正規生も応募可。

【申請方法】 所定の用紙により、期間内に学生課に提出。

【申請件数】 1 件

平成 24 年度 キャンパスライフ活性化事業

**大募集**

**めざせ!! 敏腕プロデューサー**

大学生生活をもっと楽しくするためのアイデアを募集します。

**募集期間**  
H24 .4/23(月)~5/18(金)

**応募方法**  
学生課・教務課にて所定の申請用紙を受け取り、上記受付期間内に必要書類を揃えて学生課に提出してください。  
※現代教養コース生のみ教務課に提出可。

**お問い合わせ**  
学生課 TEL:024-548-8054

応募  
プレゼンテーション  
選考  
事業実施  
実施報告

掲示による募集

平成 24 年度 キャンパスライフ活性化事業

**めざせ!! 敏腕プロデューサー**

大学生生活をもっと楽しくするための  
アイデアを募集します!

電子掲示板による募集

電子掲示板による募集

## 5. 審査

【審査委員】 11名

(構成) ・副学長(学務担当) 1名  
・各学類学生生活委員 8名(4学類2名ずつ)  
・学生課長 1名  
・学生課副課長 1名

### <プレゼンテーション・仮審査>

【実施日時】 平成24年5月23日(水)午後1時30分～

【実施場所】 福島大学 事務局棟2階「第2会議室」

【実施内容】 ①申請団体によるプレゼンテーション(1団体約20分)

②質疑応答

③終了後、出席審査委員による仮審査

【仮審査】 ①企画によっては条件付き。沿えない場合は不採択。

②計画修正による再提案で「追加採択」も可。

③以上を踏まえて、各委員が最終審査を行う。

### 【プレゼンテーションの様子】



スライドを用いて分かりやすく提案



熱心に話を聞く審査委員

<最終審査>

【最終審査方法】 キャンパスライフ活性化事業趣旨との整合性、独創性・魅力、実現性・計画性、事業効果等を考慮し、15点満点で各審査委員が採点。

- 〔 ①合計点数が満点の1/2に満たない事業については不採択。  
②予算枠内で合計点数の高い企画から順に採択。 〕

【最終審査結果】 採択件数：1件

- ① 平成24年度は1事業のみの応募となり、審査の結果採択された。
- ② 配分予算額算定にあたり、上映費やバス借上料など全て認められた。
- ③その他、必要に応じて、プロジェクトには事業実施にあたっての条件等を付した。

【採択事業一覧】 「福島に生きる」を考えるワークショップ

※事業詳細は「7. プロジェクト別実施報告」(p9～)を参照。

## 6. 福大祭での一般公開

- 【出展期間】 平成 24 年 11 月 3 日（土）～4 日（日）
- 【出展場所】 福島大学 S 講義棟「S33 教室」
- 【出展内容】 各プロジェクトの実施状況を紹介するブースを設置。実施報告や中間報告、本番に向けての PR 活動を行うなど、本事業を学内外にアピールした。
- 【入場者数】 約 210 名
- 【PR チラシ】

**平成 24 年度『キャンパスライフ活性化事業』**



**めざせ!! 敏腕プロデューサー**

大学生活をもっと楽しくするための  
「学生発案企画」を紹介しています

**11** / **3** 土

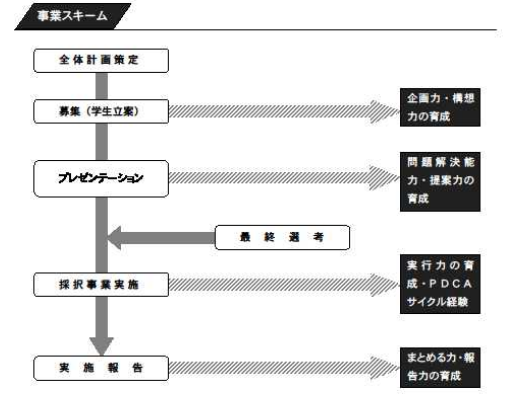
**9:00~16:00 S33教室**

ご自由に  
ご覧ください  
(担当)  
学生課

### キャンパスライフ活性化事業って?

福島大学のキャンパスライフ活性化につながるような『学生発案企画』を募集し、審査によって採択された事業を大学が応援しています。企画からプレゼンテーション、事業実施、報告書のまとめなど、普段の学習だけでは経験できない“総合的な学び”につながる大変ユニークな事業です。

大学は物品購入等にかかる資金援助や大学ホームページへの掲載などを通して支援を行い、毎年 5 件程度のアジア事業が実施されています。24 年度は 1 件のみ採択されました。



平成 24 年度採択事業のご紹介 詳しくはブースをご覧ください!

「福島に生きる」を考える  
ワークショップ



### 【出展ブース】



会場入り口



会場内の様子①（入口付近）



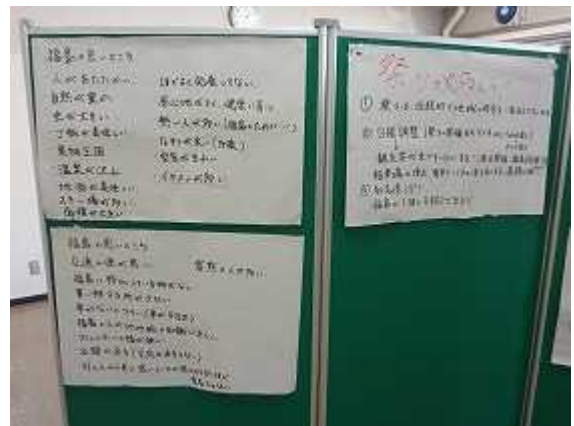
会場内の様子②



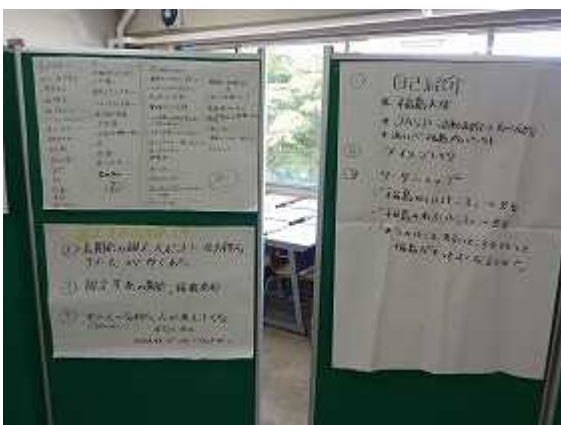
会場内の様子③



会場内の様子④



会場内の様子⑤



会場内の様子⑥



会場内の様子⑦



## 7. 採択プロジェクト実施報告

- プロジェクト名称 : 「福島に生きる」を考えるワークショップ
- 代表者氏名 : 経済経営学類 3年 村山 菜月
- 構成員 : 経済経営学類生 7名
- 事業の目的 : 今、福島に生きている様々な立場の人の価値観を知ることによって今福島で自分は何ができるのかを考えてもらい、行動のきっかけにさせていただく。さらに世代間の交流の場を提供することで、福島に生きる各世代との繋がりや意見交換していただき、変化を期待する。
- 主な事業日程 : 2012年 6月 営業活動開始  
6月 チラシ制作・広報開始  
ワークショップのコーディネーター指導  
7月 「福島に生きる」を考えるワークショップ  
事業実施
- 広報活動 : チラシ1,000部、ポスター10部、FBイベントページ、  
定例記者会見、学内広報、仮設住宅訪問 等
- 事業効果 :  
(定性的効果) 大学の存在を強くアピール  
周辺地域を巻き込んだ広報戦略を行ったことで、福島大学の価値を対外的に高めることにつながった。
- 今後の展望等 : ワークショップの進行をスムーズにし、参加者により有意義な時間を過ごしてもらえるような工夫をしたい。加えて、より対外的なアピールを図っていきたい。
- 感想等 : 今回は初めての企画でとまどいもあったが、来場した地域の方々から「楽しかった」という声を頂き、自信につながった。  
このような機会を通して、地域と大学を結ぶ橋渡しを、学生が自主的な企画で経験できることは、意義深いと思われるとともに、様々な視点で社会をとらえる訓練にもなり、自分自身にとっても貴重な体験となった。

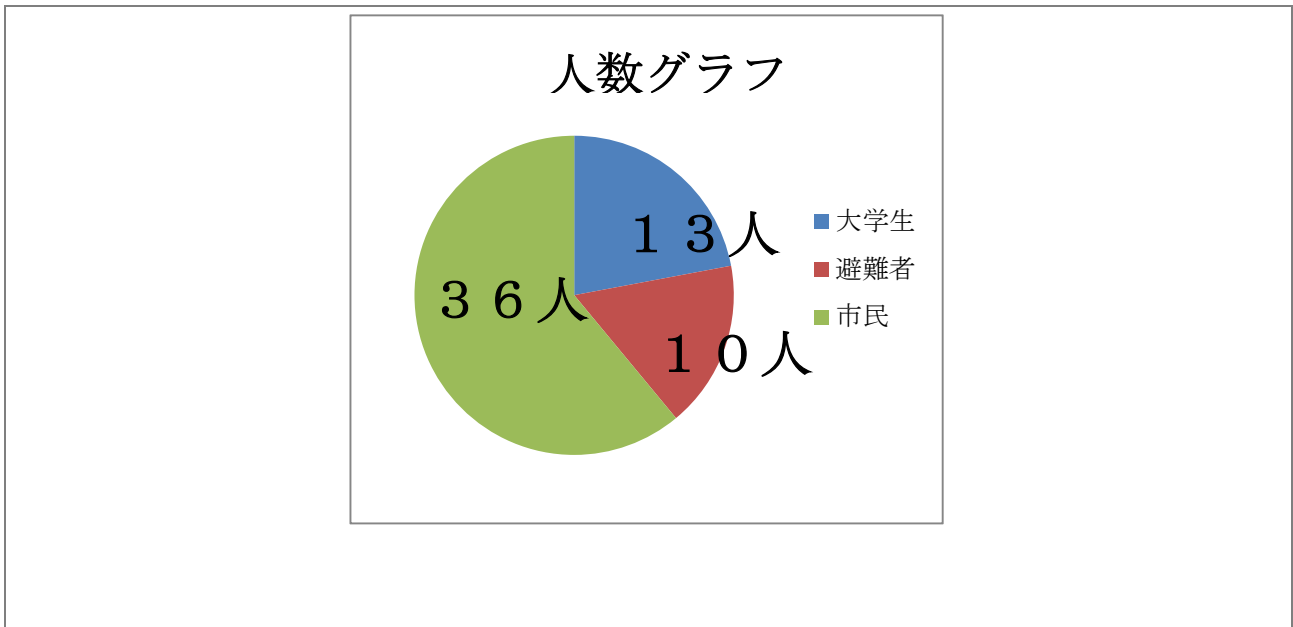
■アンケート調査結果

(調査日) : 平成24年7月13日(土)

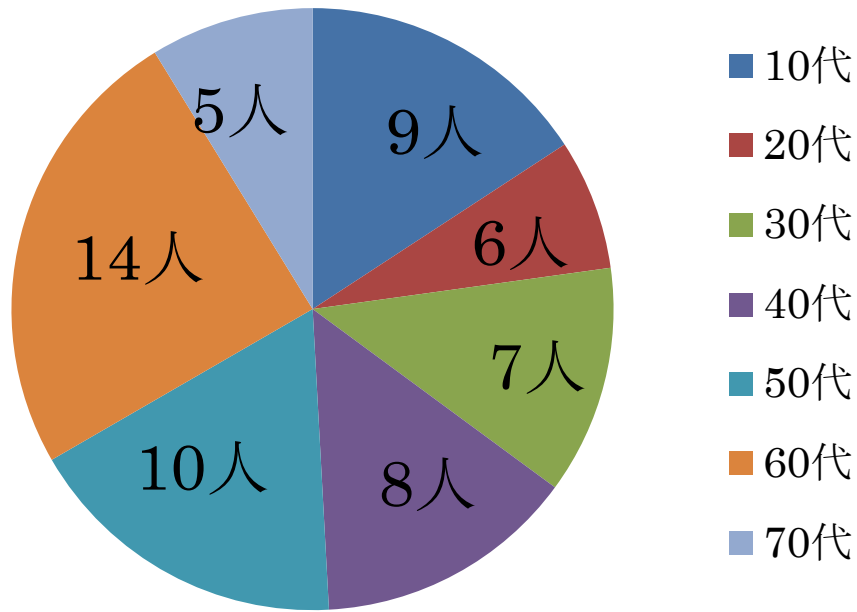
(回答者数) : 59名

(内訳) 大学生13名 / 避難者10名 / 市民36名

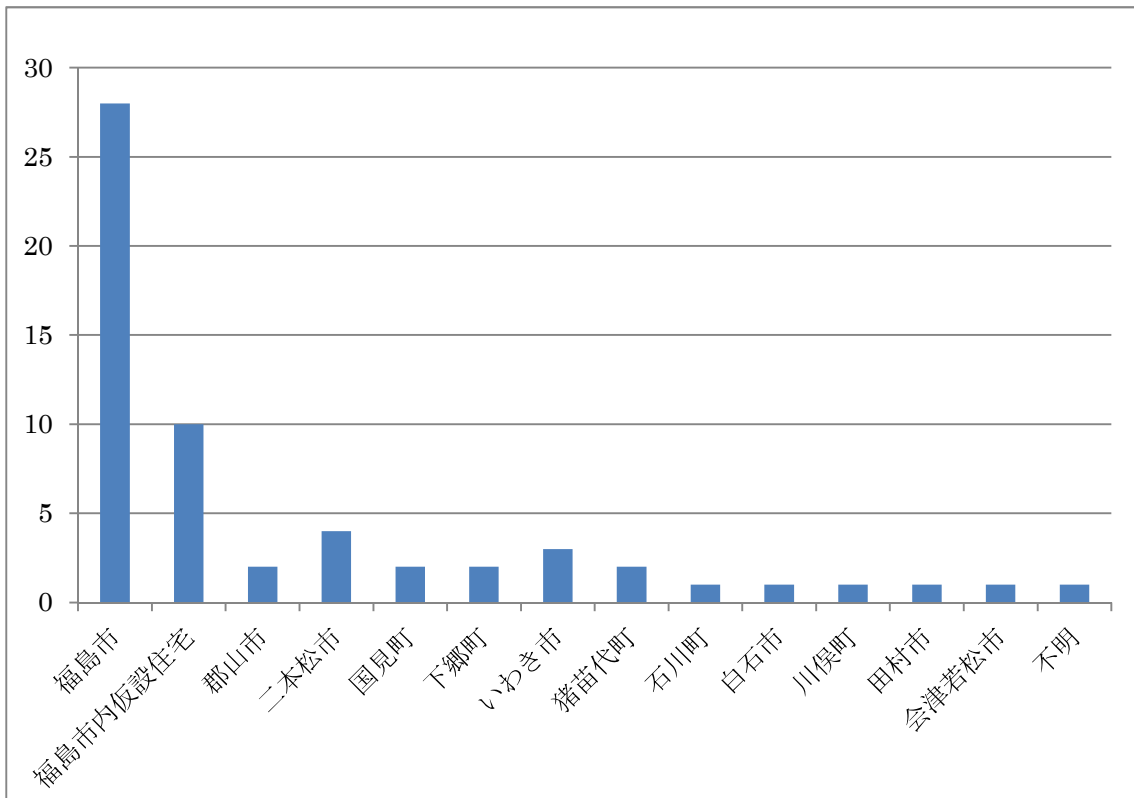
(調査結果概要) : 大学生、避難者、市民という異なる立場の3者が集まる場と設定していたが、SNSや呼びかけによって予想以上に市民の方々が多く集まったため、3者均等の割合とはならなかった。しかし来場者の年齢層に注目すると、10代から70代まで幅広くかつまんべんなく集まった。そのため、参加者からは異なる世代との交流がよい刺激になったという声が多く聞かれ、全体としては概ね好評という評価だった。



### 参加者年代別グラフ



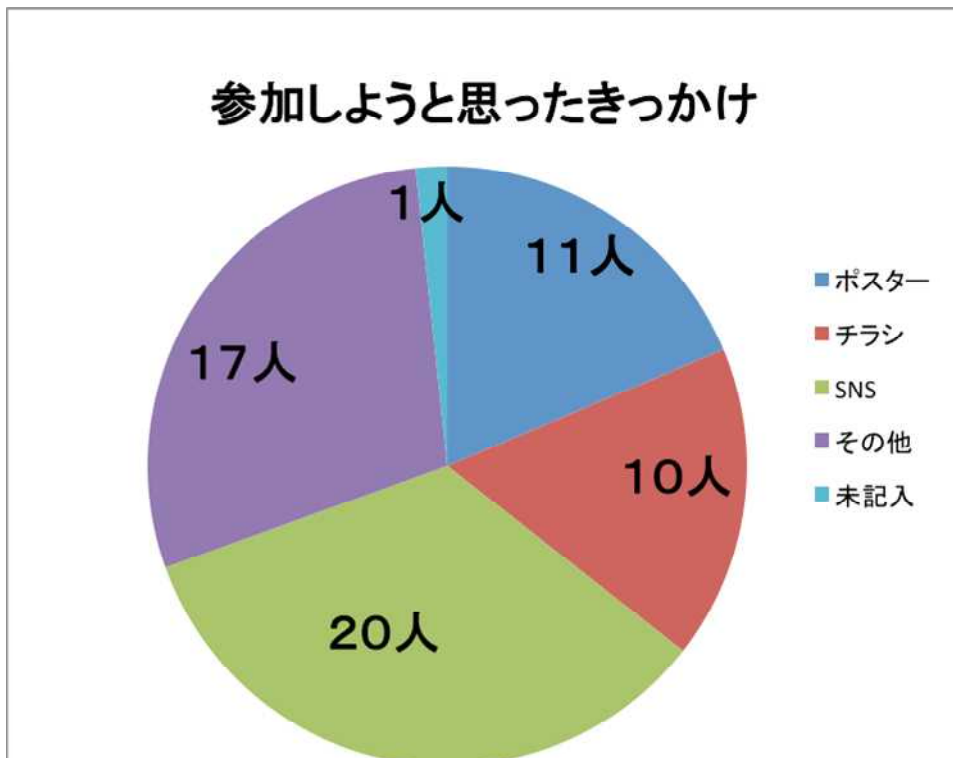
### <参加者の居住地>



1. 参加しようと思ったきっかけを教えてください。

- 1 ポスターを見て
- 2 チラシを見て
- 3 SNSを見て
- 4 福島大学のHPを見て
- 5 その他

<1.参加しようと思った理由>



・参加者の声

絆について考えたい

福島の人を考えを聞きたい

他の人の考え方、見方を知らなかった。

西川ゼミの学生が企画し、福島のことを考える企画に魅力を感じる。

福島の復興について考えているから

以前古川さんの話を聞いていたから

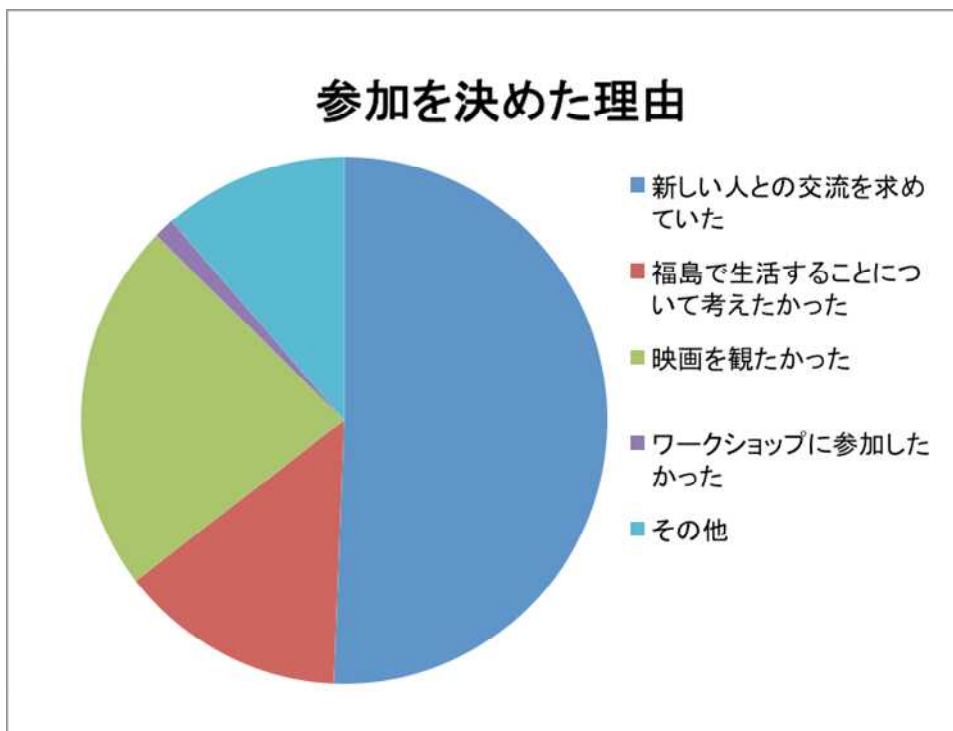
震災後、学生の方々が社会とどのようなかわりを持とうとしているか関心があったため

テーマ、題名に惹かれた

2. 参加を決めた理由を教えてください。※複数選択可

- 1 新しい交流を求めていたから
- 2 福島で生活することについて考えたかったから
- 3 映画「トテチータ・チキチータ」を観たかったから
- 4 ワークショップに参加したかったから
- 5 その他

<2.参加を決めた理由>



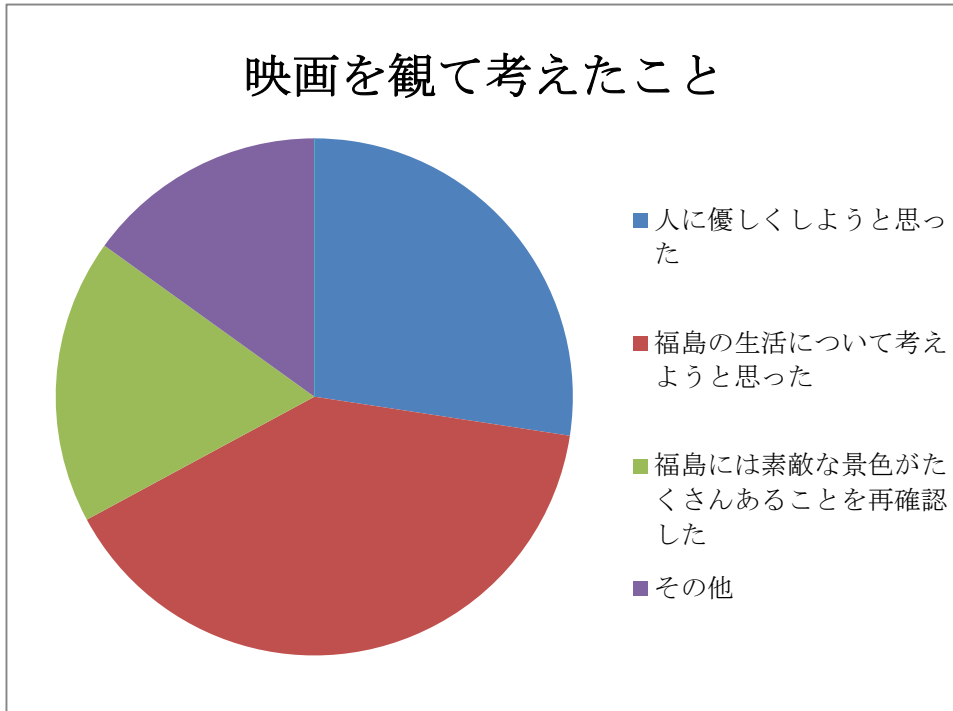
・参加者の声

- これからも年上の人と接する機会を増やしたい(10代男性)
- いろいろな人の考えを聞くことができ、有効的だと感じた(20代男性)
- いろいろな人とのふれあいが大切と思った(50代男性)
- 多くの方々との話を交わしたいと思った(60代男性)
- 福島のために何ができるのかを考えるきっかけになってよかった(10代女性)
- いろいろな人の考え方を知りたいと思った(60代女性)
- 真実探求のため交流をしたいと感じた(60代男性)
- いろいろな人の意見や考えを聞きたいと思った(50代女性)
- 若者の意見をもっと聞きたい(40代男性)

3. 映画を観た後で、意識の変化や考えたことはありましたか。※複数選択可

- 1 人に優しくしようと思った
- 2 福島の生活について考えようと思った
- 3 福島には素敵な景色がたくさんあることを再確認した
- 4 その他

<3.映画を観て考えたこと>



・参加者の声

学生諸君には真実を尊び大いに議論し社会正義を求め貫いてほしい

家族を大切にしたい

目的とした視点は理解できたが全体的にぼやけた感じがしたのが残念

福島県民の温かさを改めて感じた

映像を通してみると普段見ている景色も素敵だと感じた

家族との想い「絆」の再確認

ふるさと、家族っていいなと思った。見慣れた風景、聞きなれた方言にみんな涙していた感動した。

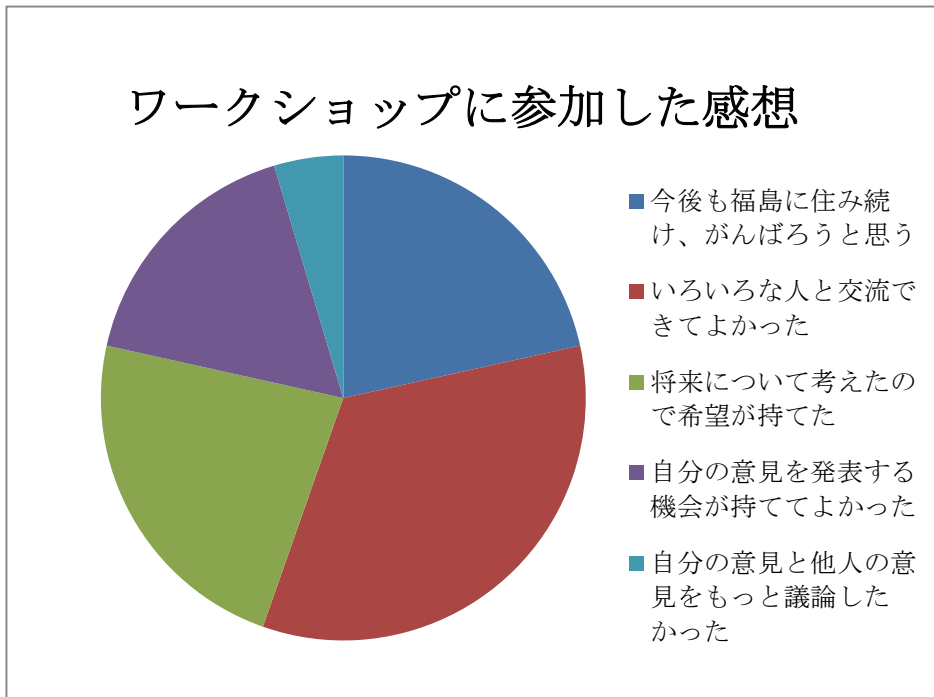
素晴らしい映画だった。学生の皆さんありがとうございました

家族について考えようと思った

4. ワークショップに参加された感想を教えてください。

- 1 今後も福島に住み続け、がんばろうと思う
- 2 いろいろな人と交流できてよかった
- 3 将来について考えたので希望が持てた
- 4 自分の意見を発表する機会が持ててよかった
- 5 自分の意見と他人の意見をもっと議論したかった

<4.ワークショップに参加した感想>



大変意義のある映画、ワークショップだった(40代男性)

立場や生き方が違うと、見方や考え方もいろいろだと思った(50代男性)

意見を交わすのは面白かった(10代女性)

これがきっかけで福島に対する理解が深まった(30代女性)

このようなイベントで各世代の交流が進むのは好ましい(20代男性)

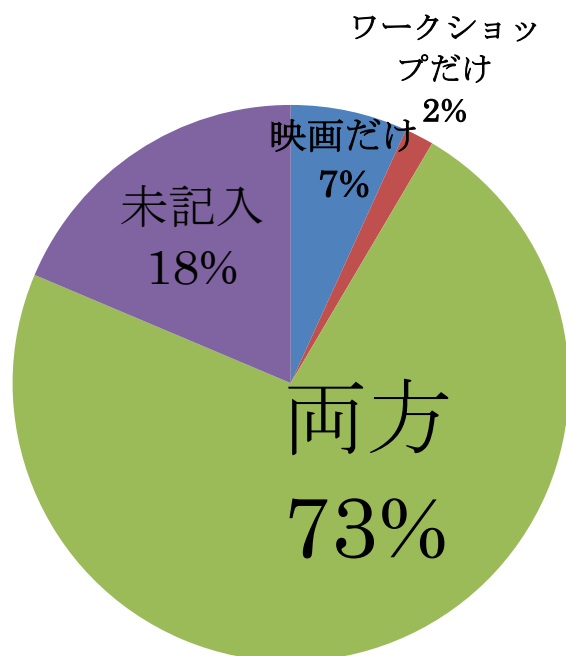
市民と学生の交流が魅力的(20代男性)

自分の考えを深め、福島県民の生の声を聞くことができるいい機会になった(10代女性)

新鮮な気持ちで仕事にフィードバックできそう(40代男性)

家族の見直し、学生も含めた話ができ(50代男性)

またこのようなイベントがあれば参加したいですか？



<その他 参加者の声>

非常に良い取り組みだと思う(30代男性)

大切だと思うからまた次回もあれば参加したい(10代男性)

機会があればまた参加したい(30代女性)

気軽に参加できていい(20代男性)

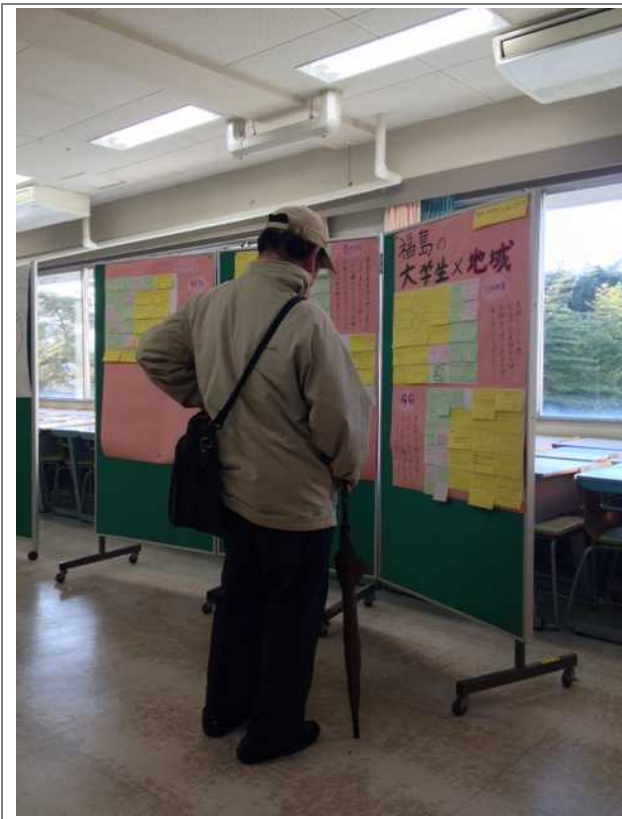
できることはしないと、と思った。勇気をいただいた。ありがとう学生諸君(50代男性)

年齢層が広がったのでいろいろな方の想いを聞いてみたかった(40代女性)

福島県民の方の意見をもっと知りたいと思った(10代男性)



■文化祭の様子



文化祭ブース



文化祭ブース

■掲載記事

福島大経済経営学類 (白河市) が映画への  
西川和明ゼミのワーク  
ショップ「『福島に生  
きる』を考える」は十  
四日午後一時半か  
ら福島大で開かれ  
る。

福島大キャンパ  
スライフ活性化事  
業の一環。映画上  
映とワークショップ  
を通して福島の  
未来のビジョンを  
考える。

映画上映では、  
震災後に本県を舞  
台に製作された映  
画「トテチータ・チキ  
チータ」を上映する。  
上映前には、プロデ  
ューサーの古川雅裕さん  
と村山菜月さん  
は「意見交換を通し新  
たな絆を生み出してほ  
しい」と参加を呼び掛  
けている。

**福島の未来を考えよう**  
ワークショップ  
あすワ  
福大の  
西川ゼミ  
増川大輔さん  
電話090(878  
7)9594へ。

入場無料。問い  
合わせは同種類の  
三つの視点から福  
島に住む意味や、  
福島の未来につい  
て語り合う。

市民を含めた  
ワークショップを開  
く。

ワークショップを  
PRする増川さん  
(右)と村山さん

【福島民報 H24.7.13 福島の未来考えよう】